

安全に食べることのできる野菜作りを学びたい



農業がなければ、私たちの食生活は成り立たない



農業は
やりがいのある仕事

土を愛し
地域を愛する

安達東高校 農業コースの取り組み

安達東高校は、教養コースと専門（農業・家庭・福祉）コースに分かれていて、生徒自身が興味のある分野を学習しています。

農業コースでは、野菜やシクラメンなどの草花の栽培実習や牛・鶏などの家畜の飼育実習も行い、実習を通して広く農業について学んでいます。地域の農家等と連携した取り組みを行っていて、岩代伝統野菜の栽培・普及活動や福島大学とのサクラランポに関する共同研究にも取り組んでいます。安達東高校の特色ある農業教育と、そこで学んでいる生徒たちの姿をご紹介します。

あいさつ坂の蜂蜜

「地域の特色を生かした農産物をつくりたい」

そんな生徒たちの思いから、今春から始められた養蜂実習。

安達東高校は中山間地にあり、周辺に菜の花やクローバーなどが数多く咲き、蜂蜜を取るには絶好の環境にあります。

全てが初めての作業。慣れない作業に戸惑いながらも、秋には製品化し販売に至りました。

「食べた皆さんに笑顔になってもらいたい」との思いから、出来上がった蜂蜜には、生徒の笑顔があふれる学校のシンボル『あいさつ坂』と名付けました。



あいさつ坂

安達東高校の校門から

校舎へ続く坂道

『あいさつ坂』と呼ばれるこの坂には、通学する生徒たちの爽やかなあいさつと笑顔があふれています。

安達東高校として初めての取り組みとなった養蜂実習。県内の農業高校でも取り組んでいる高校は少ないそうです。

まずは、先生と生徒が一緒に蜂の生態を学ぶことから始まりました。実際の作業の際は、地元岩代地域の養蜂農家さんにアドバイスをいただきました。

「何キロの蜂蜜を採ることができののだろうか」「安全に実習が行えるのだろうか」など、不安要素も数多くありましたが、その一つ一つを生徒たちと先生が協力し合い、工夫を重ねながら乗り越えていきました。

初めての試み

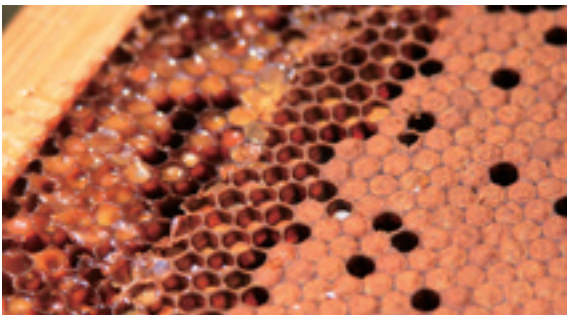
く 蜂蜜づくりへの挑戦 く

6月に行われた初めての採蜜作業。慣れない作業に苦戦しながらも協力し合い、無事作業を終えました。10月までに3回の採蜜を行い、25kgの蜂蜜を採取することができました。



アクシデントも 貴重な経験

採蜜に至るまでには、蜜を採るために欠かせない女王蜂が死んでしまったり、スズメバチによって巣箱が壊滅的なダメージを受けたりと、さまざまなアクシデントもありましたが、生徒たちにとっては、そのアクシデントも貴重な経験となりました。



「瓶詰め」や「ラベル貼り」など全ての作業を、生徒の皆さんが手作業で行いました。



とても濃厚で自然な甘さを感じられる『あいさつ坂』の蜂蜜。出来上がった蜂蜜は、11月15日・16日の2日間、東京で行われた「全国農業高校収穫祭」でも販売されました。



現在、蜜蜂は越冬の準備に入っています。3年生の養蜂実習は終わりとなりますが、冬を越した蜂は来年の3年生に託されます。経験を生かしながら、

たった一つだった巣箱を来年から増やしていく計画です。蜂蜜についても、加工品の研究を行っていきます。安達東高校の挑戦は始まったばかりです。



出来上がった蜂蜜を手に
 「初めて蜜が採れた時の感動が忘れられません。」
 「大変なことも多かったが、楽しく実習ができました。」
 それぞれの思いが詰まった蜂蜜を手に生徒たちはニッコリ。



導く力

指導者の声



安達東高校

農場長

伊藤 仁 先生

**安達東高校の授業の特色を
教えてください**

安達東高校は、農業の専門家を育成するというよりは、農業や農業関連産業への理解を深めるといふ点に重点を置いて授業を行っています。

体験的な作業を多く取り入れることにより、生徒の興味関心を高めるように工夫しています。

意欲的に活動する生徒が多く、農業コースを選択している生徒たちも積極的に作業に取り組んでくれています。

**2年間の実習授業を間もなく
終える3年生に一言**

卒業後は、農業に直接関係しない仕事に就いたり、進学したりする生徒もいますが、本校での農業学習の経験を生かし、農業のよき理解者になってほしいと思います。生きていくために必要不可欠な食糧を生産するのが農業であり、地域を形作っている農業を大切にしながら、地域発展のための力となってください。



安達東高校

畜産担当

遠藤 智子 先生

**初めての取り組みとなった
養蜂実習はいかがでしたか**

畜産は、牛などの動物を相手にするため、思いがけない事故が起こる可能性があります。養蜂も同じで、生き物を扱うため、生徒の安全面に一番気を配りました。

実際に養蜂を行ってみて、苦労した点は女王蜂の管理でした。スズメバチに襲われ女王蜂が死んでしまったこともありました。失敗も経験した初年度でしたが、生徒たちと一緒にいろいろなことを経験しながら学習してきました。

この経験を来年の3年生に伝えていければと思っています。

**2年間の実習授業を間もなく
終える3年生に一言**

3年生が養蜂を行ってくれたことで、安達東高校では4年ぶりとなる農産物のインターネット販売や東京での販売もできました。

新しいことを行うことはパワーがいらいます。それを成し遂げた3年生はすばらしいですね。高校3年間で、「これを頑張った」「力を入れた」と自信を持って言える学校生活だったと思います。

農業を学んだことで、将来、自分が家族を持ったとき、家族や子どもたちに農業の楽しさや食の大切さを教えることができると思います。

2年間の実習授業を 生かして

畜産の授業、 やるべきだった



安達東高校 3年
長谷川 哲史さん

先生たちに指導いただき、今年の農業鑑定競技の県大会で優秀賞を受賞することができました。
受賞を機に、畜産にますます興味が湧きました。4月からは農業短期大学校に進学する予定なので、畜産について、さらに学びたいです。将来は酪農関係の仕事に就けたらと思っています。

高校生活は夢をかなえる第一歩



安達東高校 3年
齋藤 友梨香さん

2年生からはじまった畜産の授業。充実した2年間でした。特に今年の養蜂実習は貴重な経験となりました。
将来は、動物の飼育に関する仕事に就きたいと思っているのですが、夢をかなえるための第一歩として畜産を選択しました。授業を通して、動物を相手に冷静に判断し行動する力が身についたと思います。

畜産の授業を選択してよかった



安達東高校 3年
北山 紗雪さん

畜産の授業が始まったばかりの頃は、作業などが大変でつらいと思った日もありましたが、今では畜産の授業が好きで、選択してよかったと思っています。
卒業後は、農業とは関係のない道に進みますが、畜産の授業で学んだこと、経験したことを生かしていければと思います。



指導に当たる先生に、実習の授業で苦労している点をお聞きしたところ「苦労らしい苦労はありません。」との言葉が返ってきました。

安達東高校の生徒は、実習の授業に積極的に取り組む生徒が多く、農業コースを選択する生徒も意欲的に実習の授業に参加する生徒ばかりだからそうです。力仕事も笑顔でこなす生徒たちの姿が印象的でした。

伊藤先生の言葉にもあったとおり、農業コースを選択している生徒の中にも、高校卒業後は農業に関係しない仕事や農業関係以外の学校に進学する生徒もいるようですが、高校での農業学習を通して得た経験や知識は人生のさまざまな場面で必ず役に立つことでしょう。

これから社会に羽ばたいていく生徒たちが、二本松市の農業の振興、そして地域の活性化の力となってくれます。